



# 碧南ロータリークラブ週報

第2719回例会 平成27年1月21日(水)

- 会長 石橋 嘉彦
- 幹事 伊藤 正幸
- 会場監督(SAA) 清澤 聡之

2014-2015 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
- TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
- ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
- E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

- 会報委員 奥津順司・藤関孝典・岡本彰人



## ●齊 唱

ロータリーソング 「我等の生業」

## ●本日のメニュー

へきなん人参弁当 小伴天

## ●本日のお客様

地区米山奨学委員会 委員 山田直樹氏

## 会 長 挨 拶

昨日は大寒という事で、1年で最も寒い時期となり、どうぞご身体にはご自愛下さいますようお願い申し上げます。

先日、碧南青年会議所の新春賀詞交歓会にロータリークラブ会長としてお招きを受けました。本年度は来賓接待という事で来賓席だけで、メンバー会員接待に動きまわられてみえました。



石橋嘉彦会長

現在碧南 JC は59年目で、30名の会員という事で私が JC の時は80名程の会員がいたように思いますが、現状からは大変だなあと思いました。本年度理事長は、JC の原点を知り、会員がその活動を理解する事で、活動の良き理解者を増やす事が出来ると抱負を話されました。

今月はロータリー理解月間です。ロータリークラブもその活動を良く理解し、良き理解者となる人材を育成する事が大きな事業の一つです。

本日は、日本のロータリークラブの共同事業として発展して、大きな成果を果たしている米山奨学会について地区米山奨学委員会の山田直樹さんよりお話を頂きますので、よろしくお願ひ申し上げます。

## 幹 事 報 告



伊藤正幸幹事

本日は5点につきましてご報告させていただきます。

- 先週金曜日午後6時より、創業100周年を迎えられます大正館様にて、刈谷、碧南、高浜、知立の4クラブ会長、幹事、事務局懇親会を開催致しました。高浜 RC の名倉会長、鈴木幹事より、4月4日土曜日開催の I.M につきまして、多くの皆様のご参加をお願いしたいというご依頼がございましたので、よろしくお願い致します。なお、I.M 参加のご返事に関しては、本日までとなっております。まだお返事されていない方、予定が変わって出席になりました方はよろしくお願い致します。大正館様を正面から描かれました山中先生の水彩画を拝見致しました。建替えをされるという事で、歴史を感じております。
- 第7回の理事会報告及び、他クラブの例会変更等は幹事報告書の通りでございます。お目通しを下さい。入会候補者につきましては、メールボックスにて配布致しております。
- 地区大会バスのご利用、懇親会のご参加につきまして、メールボックスにてご案内致しております。2月22日の日曜日、午前8時半に商工会議所を出発しまして、午後6時半前後に碧南に帰って参ります。小伴天さんにて懇親会を開催致しますが、バス利用、懇親会参加につきまして、2月4日までにお返事頂きますよう、お願い致します。
- ガバナー事務局より、日本のロータリー2020年新世紀ビジョン、ロータリアンの皆様からのご提言、ご提出のお願いが届いております。詳細は、ロータリーの友12月号25ページに掲載されております。2020年10月、東京 RC 誕生100周年、イコール日本のロータリー100周年という事で、日本のロータリーの100年後のビジョンの展望が必要とされ、また、ビジョンが描かれるためにもロータリアンお一人お一人の英知を結集してビジョンを作成したい。そのために、建設的なビジョンを作成してほしい、という事でございます。そして提言をもとにして、組織対応を整えていくとの事で、国際ロータリー理事2名と、ガバナー会議長の連名にての呼びかけとなっております。600字以内で、ガバナー事務局へ3月31日までに電子メールにて提出をお願いしたいとの事です。
- 次回の1月28日例会は、卓話時間確保のため、例会開始前12時よりお食事をお召し上がり頂けますので、よろしくお願い致します。

## 委 員 会 報 告

### <出席奨励委員会>

総会員数 67 名 (内出席免除者 16 名の内出席者 8 名)出席者 51 名	
出席対象者 51/59 名	出席率 86.44%
欠席者 16 名(病欠者 0 名)	前々回修正出席率 100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

## <ニコボックス委員会>

地区米山奨学委員会 委員 山田直樹様より頂きました。

- 伊藤 正幸君 4クラブ会長・幹事・事務局懇親会にて碧南のウィスキー、レインボーウイスキー12年ものを賞味させていただきました。おいしかったです。
- 竹中 誠君 商工会議所さんの「新春経済講演会」楽しく聞かせて頂きました。
- 平松 太君 前回の例会で退会されました斉藤様の挨拶の中にて、真心の人柄、ソングリーダーの人格について印象に残ったと話され、やっぱり真白な真心は良いもんだなと思いました。
- 杉浦 保子君 先週の4クラブ懇親会、ありがとうございました。

## クラブフォーラム

### 「米山奨学会の現状」

地区米山奨学委員会 委員 山田直樹氏



山田直樹氏

あらためまして、皆さんこんにちは。山田と申します。本日は地区の米山奨学委員会の代表として、碧南 RC さんへお邪魔しております。米山奨学基金についてご理解頂く事が私の役割でございます。友好ムードの中、役割を果たしたいと思っておりますので、どうぞご協力の程よろしくお願い致します。

米山奨学会は、東京 RC が1952年に独自の事業としてスタートし、5年程で他のクラブも参加するといったような経緯があり、ずいぶん長い歴史を育んできております。国際ロータリーとの関係ではなく、日本独自の事業が続いてきた稀有は存在ではないかと思えます。ここまで続けてきたのは、それぞれの時代のロータリアンの心をとらえてきたのではないかと思えます。

既に1万8千人ほど奨学生を数えております。日本で就職したり、各国へ帰りそれぞれの環境で就職している状態でございます。嬉しいのは、200名程が日本でロータリアンになって活動を続けているという事実、米山奨学生を中心としたクラブが日本で4つ、外国で2つございます。ただ卒業したわけではなく、ロータリーを活かしてくれて、お世話になった恩返しを何らかの形で行いたいという気持ちをもってきているのも、まぎれもない事実でございます。私も個人的に共鳴を覚えるわけでございます。

現在の寄付の状況です。2013年7月1日から、2014年6月30日までにご寄付頂いたものを2760地区に振り分けられ、採用する奨学生の数が決まります。その最後の面接試験を行い、総数36名の奨学生で決まりました。昨年の寄付金で2015年4月からかかる金額をまかなっていきます。2760地区愛知県は、それぞれのクラブから納めて頂く普通寄付が、2,225万円でした。各メンバーの方が納めて頂く特別寄付が、6,400万円ほどでした。合計で、8,636万円を寄付して頂きました。地区人数が4,822人で、特別寄付して頂いた方が、1,393名でした。全体の28.9%の方が個人で納めて頂きました。お一人あたり、17,910円納めて頂いた事になります。総額は、全国の地区内2番目で、大変すごい数字でございます。

1番はどこかといいますと、福井、滋賀、京都、奈良2650地区で、9,900万円の寄付金を集められました。

3番目が2660地区の大阪で、8,320万円ほどでした。

総額はとてもすごいのですが、この2地区と決定的に違うのは、特別寄付の割合が2地区に比べて低い事です。28.9%が決して悪いとはいいいませんが、2地区は、80%と70%ほどです。私も20年ほどロータリアンをやっておりますが、毎年少額ではございますが、継続して納めさせて頂いております。少額でも結構ですので、ご理解頂いた方は出来れば継続して寄付して頂けたらありがたいなあ、という気持ちでおります。

碧南 RCさんの数字もご紹介したいと思います。2014年6月当時、66名の会員数ときいております。クラブから納めて頂いた寄付金は、33万円でした。個人で納めて頂いた特別寄付は、93万2,000円でした。合計で126万2,000円を納めて下さいました。最敬礼する数字の一つだと思います。これからの会長、幹事、会長エレクトさんでお考え頂きたいのは、特別寄付を7名の方で補って頂きました。生意気かもしれませんが、この人数が増える事を願っております。

米山奨学生に選ばれる人は、リアナさんもそうですが、ほとんどの方が修士課程、博士課程でがんばれるそうです。出来るだけ多くの人に基金を受けてもらいたいわけです。しかし、留学に困っている人を最優先に採用するわけではなく、あくまでロータリーの事も理解出来る能力を持っておられて、より日本の事も理解していて、いずれ各国と日本との架け橋になって頂けるような可能性のある人材を選びます。最終面接がたったの6分で、それで決めなければならないので本当に我々は苦しいのです。

単年だと少しは優先度が高いのですが、リアナさんは2年奨学で不利だったと思いますが、それでも受かったという事は試験官の心をとらえた何かがあったのではないかと思います。

大学から推薦される方は優秀な方ばかりですので、本当に辛い選択を余儀なくされます。

あとは日本語の理解度がある程度ないと意思の疎通ができないので、日本語能力は大きな要素になります。

今回の面接で集まって下さったのが80数名でしたが、奨学生として採用するのは29名でした。本人へ知らせがいくのは来月になりますが、中国、韓国、台湾の順に多く、タイ、マレーシア、スリランカなど大半が東南アジアご出身の方です。政治的な差別で選ぶ事はしませんし、バランスよく採用しております。

ここ最近ではどのガバナーも米山奨学制度の理解が進んで、重要な事業の一つだという事で色々発破をかけられております。

本日の私のお話でご理解頂けないかもしれませんが、これからはなくなる事なく、そして、日本へ来た外国の留学生が、米山奨学生として過ごす事が将来のためになる事を願っております。お世話をされるクラブにとっても、その方を通じてのその国との友好や、理解が進む役割をきっと果たすと思います。

今後ご理解、ご協力を頂きたいと思います。どうもありがとうございました。

## 次回例会案内

平成27年2月4日（水）

クラブフォーラム「国際奉仕について」

地区国際奉仕委員会 委員 村瀬秀和氏